

平成25年度「岐阜県ふるさと教育週間」実施報告書

学 校 名	郡上市立幼児教育センターやまびこ園		
実 施 期 間	平成25年10月～平成25年11月		
実 施 概 要	① 祖父母との農業体験（収穫・食育食べる） ② PTA資源回収 ③ 家庭教育学級（地域の自然体験） ④ 福祉施設（やまつつじ・郡上偕楽園）との交流		
実 施 内 容	学習・取組の分野 <input checked="" type="checkbox"/> 自然 <input checked="" type="checkbox"/> 歴史 <input checked="" type="checkbox"/> 文化 <input type="checkbox"/> 産業 <input checked="" type="checkbox"/> その他		
	公開の方法 <input checked="" type="checkbox"/> 授業公開 <input type="checkbox"/> 成果発表 <input checked="" type="checkbox"/> 交流活動 <input type="checkbox"/> 講演会等 <input checked="" type="checkbox"/> 地域行事等参加 <input checked="" type="checkbox"/> その他		
来 校 者 数	保 護 者	1 5 2	人
	地 域 関 係 者	6 0	人
		計	2 1 2 人
実 施 状 況	① 祖父母との農業体験 祖父母20名 全園児 ・祖父母の方に、一年間の畑作りを通して園児と触れ合う。子ども達は、共感し合う体験を通して親しみをもったり、関わる楽しさを知る。 ・さつまいも植えでは、祖父母が講師になり、植え方の指導を受け、水やり等を日常行う。芋ほりは学年事に分かれて掘り、芋のつるを皆で引っ張ったり、芋がどうやってできているのかを知る。そのつるを使って、綱引きやリース作りなどの活動につなげた。焼き芋会では、祖父母の方々に朝から来ていただき、火熾しからもみ殻がこげて芋を入れるまで参加する。焼き上がって一緒に食べるまで、落葉掃きなどをしてもらう。おやつの時に焼きあがった芋を子ども達と食べる。 ② 資源回収（保護者・野口地区） ・資源回収について保護者会との打ち合わせをし、お手紙配布2回（ボランティア協力のお願い、回収品目早見表等。）行う。 ・資源回収日には、ボランティア7名参加、資源回収日参加は保護者、地域の方を含めて60件協力、資源回収会計報告と収益金の今後の用途目的について話し合う。引き続きアルミ缶回収（毎月20日）実施している。 ③ 講師による親子ネイチャーゲーム(家庭教育学級)保護者45名・園児47名 ・地域の自然で遊ぶことを通して、自然に親しみながら親子ふれあいを深める。 ・活動の前に、朝の会を参観。その後、園庭に隠されていた生き物やカード探しを楽しむ。(ゲーム的な楽しさと生き物の生態を知る面白さがある。)その後、室内で絵本の読み聞かせと、ごほうびに、虫めがねをプレゼントしてもらい、絵本に出てくる虫につなげて活動が終わった。 ④ 老人福祉施設の利用者との交流。(やまつつじデーサービス・郡上偕楽園)利用者の方に歌や手遊びを披露したり、直接身体に触れることで、お年寄りに元気を与え、子ども達は、労わりや優しい気持ちを育てる。		
成 果 及 び 課 題	・資源回収について、大和地域全体に手紙・早見表を配布し、資源回収の協力をお願いした。保護者にも同じように配布。毎月20日のアルミ缶回収を通じて、資源（再利用）についての話等を家族で行い、再利用の意識につなげていった。保護者においては、全体の三分の一、地域の協力は4～5名程度と少なかった。地域の方は、子どもが園にいないと来にくいので、保育参観・夏祭り・運動会等、案内を出したりして、つながりを大事にしてきた。今後続けることで、つながりを深めていく。 ・年長児がやまつつじや偕楽園を訪問し、利用者の方との触れ合いや歌や手遊び、肩たたきなどをして交流を行った。体験を通して、いろいろな人々に親しみをもち、関わる楽しさや人の役に立つ喜びを味わうことができた。昨年度の経験もあり、事前に話をすることで、「○○してあげたい。」「これを持っていくと喜ぶかも？」等の声が聞かれ、思いやりの気持ちが育っている。帰ってくると、「おばあちゃん泣いとった。」等、優しい気持ちと祖父母の愛情に気付いたり、家族の大切さに繋がった。利用者の方々にも効果があったようで、一緒に楽しむ姿や表情も和らぎ、明るく機嫌も良く心も体も元気になられたように感じた。		

